

ユーザーレポート User Report

ゼロ
0の証明

愛と葛藤の記録 — 「飲酒運転ゼロ」への道のりで見えた、49歳夫の挑戦と妻の深い愛情

個人

この詳細レポートは、アルコール・インターロック装置を導入したご夫婦が、飲酒問題にどう向き合い、日々を乗り越えようとしているかを、それぞれの内面的な課題と献身的な愛情に焦点を当てて分析したものです。49歳という働き盛りのご主人様が抱える「仕事の義理」と、それを理解しつつ「もう二度と不安な夜を過ごしたくない」と願う奥様の深い愛情が、この取り組みを支えています。

ご利用機器

カメラ付き
アルコールインターロック装置

ALC-ZERO II



ご主人様の深い葛藤と、仕事人としての板挟み

ご主人様は、生活に車が不可欠な地域(通勤20~30分)で働くビジネスマンとして、自己の意志と社会的な役割という、二つの大きな課題に直面しています。

自己認識の狭間

～病識と「調整できる」という意識～

ご主人様は現在、奥様の献身的な働きかけにより、月1回の精神科病院(個別カウンセリング形式)を継続し、飲酒日の記録も提出しています。この治療が功を奏し、健康診断では肝機能を示す γ -GTPなどの数値が顕著に改善しています。



課題としての成功体験

数値改善という「成功体験」は喜ばしい一方で、ご主人様の中で「依存症という病気」としての認識は限定的です。奥様によると、ご主人は「自分はまだ量を調整できる」という意識を強く残しており、これが奥様が望む「断酒」への移行を難しくしている根本原因です。

また、医師から自助グループや断酒会への参加も勧められていますが、ご主人様は自身の性格との適合性に懸念を示し、「病気」として公に認めることへの心理的抵抗が強く残っています。

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

断れない環境とルールの徹底、 ビジネスマンの現実

ご主人様が最も葛藤するのは、仕事上の会合文化です。飲酒を断れない相手や、席を立てない関係性があるため、ご主人は「甘さが出やすい」という自己評価を持っています。この仕事人としての「義理人情」が、断酒への最大の障壁となっています。

ご夫婦で「飲酒の可能性がある日は車を置いて電車移動」を徹底するルールを設け、事前にリスクを回避しています。また、やむを得ず参加する場合は「事前にノンアルコール宣言」や「乾杯の一杯に留める」といった細心の注意を払っています。

インターロックが示す「残酒」の現実、 技術への確信

ご主人様は、インターロック装置を「自己管理を支える強制力」として非常に前向きに受け入れています。

「私のようなジャンルの人間」「だらしのない自分」とご主人様は自分を客観的に捉えておられました。この言葉の裏には飲酒運転、飲酒について奥様に心配をかけている事をしっかりと認識されているのです。

ご主人様は「常時装着でよい」と発言しており、特に、前夜の飲酒が残った状態での運転という「残酒運転」のリスクを、毎朝の測定を通じて可視化・体感したことで、安全意識が大幅に向上しました。ただし、冬季には寒冷地特有の起動に数分かかる待機時間が生じることが、日常生活の不便さとして残っています。



奥様の献身的な愛情と、不安な夜からの解放

奥様の取り組みは、ご主人の健康と安全を心から案じる深く、細やかな愛情に基づいています。長年の飲酒問題による深い苦悩から、ご主人の再生を支援するため、緻密なルールと献身的なサポートを実践されています。

「きりがなかった」飲酒と事故の懸念、 長年の恐怖

奥様は、ご主人が過去10年以上前に起こした単独事故の経験や、昨年把握した飲酒後の運転事例の経験から、「いつか重大事故を起こし、加害者になってしまうのではないか」という拭い去れない恐怖を抱いていました。「飲酒事故を起こした人は酔っているのが当時のことを忘れて繰り返すが、家族は毎回ずっと覚えている。」奥様にとってインターロック導入は、この「きりがなく、コントロールが不可能だった」不安な夜からの解放を意味しています。

ご主人様が「調整できる」と認識しているのに対し、奥様は過去の経緯から「自力調整には限界がある」と判断しており、断酒こそが最も望ましい目標であると強く願っています。

「優しい見守り」のための徹底的な仕組みづくり

奥様の愛情は、ご主人を責めるのではなく、客観的な「安全確保」と「情報管理」という緻密な行動に表れています。

ご主人様の仕事上の会合予定カレンダーを常に把握し、「会合日は車禁止」を徹底しています。さらに、翌朝の運転前には必ず残酒チェックを義務付け、「陽性反応が出た場合は、予定をキャンセルしてでも運転を中止する」という安全を最優先するルールを徹底しています。

そして、ご主人が一人で通院した場合の情報の偏り(バイアス)を防ぐため、奥様は可能な限り通院に同席し、飲酒の事実や生活状況を第三者の視点から医師に報告しています。治療の質を高めるためにも、情報の透明性を保つという奥様の役割は非常に重要です。

ご主人は、アルコール・インターロックを搭載していることをご両親や他人(職場や近所の方)に知られることが恥ずかしいとおっしゃいました。ご主人の「プライド」を尊重し、インターロック導入や通院の事実はご両親にお伝えしておりません。ご主人の回復を最優先したデリケートな配慮を続けています。

いつか堂々と「妻が心配してアルコール・インターロックを搭載しているんです。自分自身も見守られていて安心です。」と言えるようになる事がこのご夫婦の大きな一歩になるのでしょうか。



※写真はイメージです

技術と連携による「安全の強化」策

ご夫婦の努力と、インターロックによる現在の安心感を永続的なものとするためには、さらなる運用の強化と、多角的な支援体制の構築が不可欠となります。

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

装置運用には、いくつかの課題が残されています。特に、ご家族が懸念されているのは、エンジンの連続稼働中、すなわち長距離運転中などに再測定要求がない場合の理論的な「抜け道」リスクです。長距離運行や夜間の会合帰りを想定し、1~3時間ごとに再測定を促す設定を加えることを検討する必要があります。また、冬季には寒冷地特有の起動待機時間がかかるという不便さがありますが、この不便さを「安心の対価」として受け入れ、運用を継続する決意です。

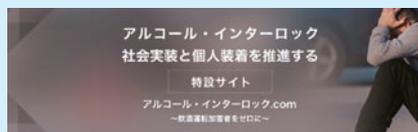
技術的な課題と並行し、ご主人の「行動リスク」への支援強化も重要です。仕事上の会合で「断れない」場面に直面し、予期せず飲酒が再発してしまう可能性は常に存在します。これに対処するため、ご夫婦は飲酒が予想される会合前の移動手段の事前選定を徹底し、同行者へのノンアルコール宣言を強化することで、事前の防御を固めています。さらに、ご主人の性格的な懸念はあるものの、再発予防と仲間意識の形成に有効とされる自助グループ(断酒会など)の単発見学・体験参加についても、今後前向きに情報収集し、支援の可能性を探っていく予定です。

私たちがお伺いした際、ご主人がお仕事を早く切り上げて帰ってこられました。「ただいまあ〜!」この優しい言葉に、ご夫婦の仲むつまじい姿を見せられた一面でした。

アルコール・インターロックが繋げてくれた素敵なご夫婦との出会いに、感謝致します。

取材ご協力

家族を守る方法の手段として、
アルコール・インターロックを導入された
Yさんご一家



東海電子WEBサイト
【アルコール・インターロック.com】
<https://alcohol-interlock.com/>



LINE 公式アカウント

@700xyfip

大切な人の飲酒運転で
悩まれていたら…
いつでも LINE で
ご相談ください!

